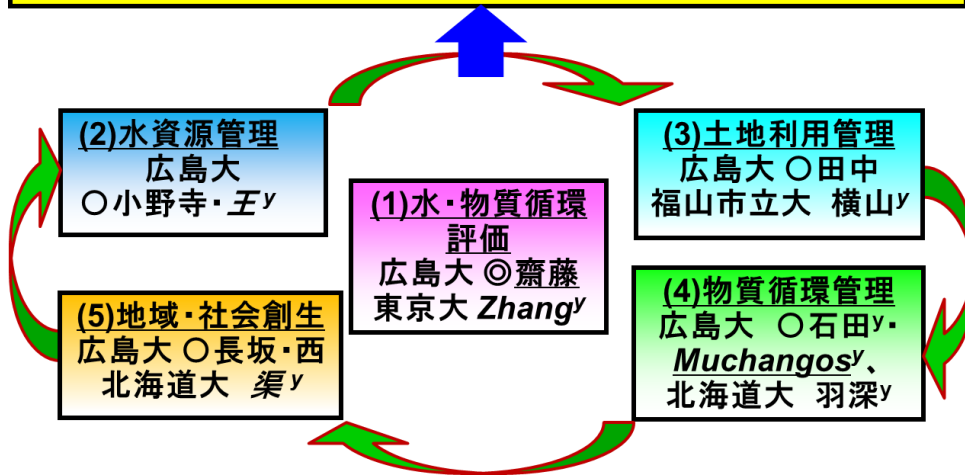


体制図

レジリエントな流域圏資源循環研究拠点

SMART-SATO | Solution for MAnagement of ResilienT resources
cycle: Sustainable, Adaptive and Transdisciplinary Outcome



*コアメンバー12名、連携メンバー16名

◎: 拠点リーダー、○: サブユニットリーダー、■: コアメンバー、^Y: 45歳以下の若手研究者(18名)、下線: 女性メンバー(13名)、斜字: 外国人メンバー(18名)

(1)水・物質循環評価

◎齋藤光代^Y、■Zhang, Runsen^Y、Kimbi, Sharon^Y、Paytan, Adina、Nguyen, Nhat^Y

(2)水資源管理

○小野寺真一、■王崑陽^Y、Nang, Yu War^Y、松岡洋一郎、Hirata, Ricardo、Suhogusoff, Alexandra^Y

(3)土地利用管理

○田中貴宏、■横山真^Y、Bertolo, Reginaldo、Ruas, Grazielle^Y

(4)物質循環管理

○石田卓也^Y、■Muchangos, Leticia^Y、■羽深昭^Y、Varnier, Claudia、Gil Marques, Carlos^Y

(5)地域・社会創生

○長坂格、■西真如、■渠蒙^Y、後藤大策、Lee, Chui Ying^Y、Ikematsu, Priscila^Y、Rusydi, Anna^Y、Yvette, Baninla^Y

拠点ビジョンの達成に向けたKPI

- 拠点コアメンバー(12名)の8割程度が中間評価(2年目)までに代表で大型研究プロジェクト(40歳以下の若手研究者: JST創発的研究支援事業など、理工系研究者: JST SATREPSなど、人文社会系研究者: JSPS科研費基盤研究(A)など)に申請し、最終評価の時点で2割採択を目指す。
- 拠点コアメンバーによるTop10%論文およびQ1誌の論文数を、中間評価(2年目)までに現状の約1.5倍、最終評価の時点で約2倍に増加させる。
- 拠点に関わる若手研究者(大学院生を含む)の数を、中間評価(2年目)までに現状の約1.5倍、最終評価の時点で約2倍に、連携する企業数を中間評価(2年目)までに現状の約3倍、最終評価の時点で約5倍に増加させる。